



# おおくぼ

学校教育目標 ゆめにむかって かしこく やさしく たくましく  
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

令和3年1月7日第10号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子120名女子114名 計234名

## 思いやる言葉

### 校長 金子 要一

保護者の皆様、地域の皆様、そして児童のみなさん、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。そして、昨年来、世の中を不安に陥れ、今までと違う生活を強いられているこの状況が一日も早く解消し、普通の生活ができるようになることを願ひますと共に、医療、看護、介護従事者の皆様に感謝申し上げます。

さて、先日、資料を整理していて言葉かけに関する興味深い話を見つけました。それは、ある方のおばあさん（祖母）のお話です。ある方が子どもの頃、おばあさんに「〇〇（名前）はこの頃、良くなってきたね」、「〇〇、前よりずっと良い子になってきたよ」と声をかけられてきたそうです。良くないことがあっても「良くなってきた」と、良いところを見つけてほめてくれたそうです。それも、他の誰かと比べるのではなく、**その子自身**が前よりも**成長している**ことをほめてくれたそうです。これを聞くと、「〇〇はまだ成長の途中で、この先もっと良くなるよ、伸びるんだよ」という、相手を**思いやる温かさ**を感じます。こう言われて嫌な気にはなりません。**頑張ろう**という気になります。

人は誰でも、自分のしたことを**否定**されたり、行動を**制限**されたりすると**反発心**が生まれます。例えば、「～するからダメなんだ」と高圧的に言われることや、「～しなさい」という強制する言葉、「～してはいけない」という禁止する言葉をかけられると、「これからやろうと思ったのに」と、やる気を削（そ）がれたことはないでしょうか。このような気持ちになるのは、大人はもちろん、成長の途上である子どもでも同じです。

たとえ、それが正しいことであっても、相手が納得してないのにそれを押し付けてしまうと、言われた方はカチンと来ます。さらに、言われたことが正しいと頭では分かったとしても言われた方はなかなか素直に受け入れられません。「自分の言っていることは正しい」、「相手のためを思って言っているのだ」という考えは、相手の気持ちや周りの様子が見えにくく、結果的に押し付けていることになります。

でも、このようなことは子ども同士だけでなく、教師を含め大人も子どもに言いがちです。本当に相手のことを思うなら、相手を思いやる言葉を使いたいものです。

「やらされている」と思いながらやるのでは気持ちが入らず成果も上がりません。そんな時は始めに述べたような**相手を認め思いやる、ほめ言葉**が効果的です。否定されるのではなく、**肯定される言葉**をかけられれば、「よし、やろう。」という気になります。強制ではなく、相手の気持ちを汲（く）み取ってやる気を引き出すようにはたらきかけることが大切なのではないでしょうか。

先行きが見えず、不安な気持ちで過ごしているこんな時こそ、ギスギスした言葉かけをするのではなく、相手を**思いやる言葉**をかけたいものです。

老朽化のため取り外されていたブランコが、12月に**待望の復活**を果たしました。復活の日、休み時間になると、我先にとブランコめがけ多くの児童がグラウンドを疾走しました。当然、体が大きく足も速い**上級生**が先にブランコに**到着**しました。その後赤い帽子をかぶった**1年生**が続々と到着しました。すると、先に着いていた上級生が1年生にブランコを**譲**ったのです。見る見るうちに4つのブランコが赤い帽子で埋まりました。とても良い光景でした。